



どういう人間がすばらしい人間なのですか



人間、誰もがいい人生（幸福な人生）を送りたいものです。

そこで、「素晴らしい人生、幸福な人生を送るとは、どういう生き方をすることか。素晴らしい人間とはどういう人間なのですか？」とみなさんが問われたら、どのように答えられるでしょうか。

その問いに、作家の瀬戸内寂聴さんは次のように答えられています。

やはり自分の存在によってだれかを幸せにする、ひとりでもいいのです。だれかを幸せにしたら、それは素晴らしい人生だと思います。そのことによって自分も喜びを、幸福を感じることができますね。なにか大きな偉大なことをしようなんて思わなくていいのです。ささやかでいいから、だれか自分の身のまわりの人を幸せにする。たとえば、病気で休む友達がいたら、その人のために習ったノートを一冊作って届けるとか、あるいは一週間ごとに今日はこういうことをやっていると知らせてあげるとか、それは面倒くさいのですが、その自分の行為によって相手が非常に元気づけられると思います。病気をしたことによって、こんなにいい友達がいたということがわかって、病気をしたこともよかったなと思うかもしれないのです。

「生きることは愛すること」瀬戸内寂聴 講談社文庫
(書物「生きることは愛すること」は、寂聴さんが母校である、徳島県立徳島高等女学校で講演をされたときの質疑応答をまとめたものです)

いかがでしょうか。寂聴さんは、“誰かを幸せにすることが素晴らしい人生”だと言っておられます。

人間誰でも、幸せに生きたいと願っています。私たちは、幸せを願うときに得てして「健康な生活を送れるように」「お金で苦労しないように」「好きな人と一緒になれるように」「好きな仕事ができるように」等、自分のことや自分の身近な人のことを願うことでしょう。でも、寂聴さんの言葉を聞いた時に、違う答えがあるのだということに気づかされるのではないのでしょうか。

平成29年8月に発行した「青少年育成センターだより第23号」で“本当の幸せ”について考えて紹介した以下のような言葉があります。(これまでの「青少年育成センターだより」は、防府市のホームページに掲載しています。ご覧になってください)

人間の幸せは、ものやお金ではありません。人間の究極の幸せは次の4つです

- 1 人に愛されること
- 2 人にほめられること
- 3 人の役に立つこと
- 4 (そして) 人から必要とされること

いかがでしょうか？ここでも「人の役に立つこと」が人にとって幸せであるといっています。みなさんも家庭で“幸せ”について話し合ってみませんか。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村